

第1回 JICA 海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰 受賞者決定及び表彰式の実施について

1. JICA 海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰について

JICA では JICA 海外協力隊の事業目的の一つである「ボランティア経験の社会還元」事例を収集し好事例として紹介することで、協力隊経験者の社会還元の機運を高めると共に、より良い社会の実現を目指すため、帰国後10年以内の JICA 海外協力隊経験者で、国内外・公私問わず社会課題の解決に取り組んでいる方を表彰する『帰国隊員社会還元表彰』を2023年より開始しました。この度、記念すべき第1回の受賞者8名が決定しましたのでお知らせします。



2. 受賞者

大賞	
氏名	徳島 泰 (2012年度1次隊、フィリピン、デザイン)
活動内容	開発途上国向け超低価格3D義足の開発、およびその提供活動
審査員コメント	<p>隊員任期中から世界初となる義足の3Dデジタル製造ソリューションの開発に携わり、社会参加が阻まれている世界中の人々を救う取り組みを実現。また、隊員時代から起業後の現在に至るまで、その独創性やインパクトの大きさが第1回目表彰の大賞に相応しいと判断した。</p> <p>※募集時には未設定の賞でしたが、審査委員会にて、大賞に相応しい事例との結論に至り、新たな賞を設定することと致しました。</p>

アントレプレナーシップ賞	
氏名	加藤 菜穂 (2017年度3次隊、ラオス、コミュニティ開発)
活動内容	ラオスの伝統的な織物を素材としたアパレルブランド siimee(シーミー)の立ち上げ
審査員コメント	ラオスの伝統織物を使い、単なるフェアトレードとしてではなく、顧客視点による高い付加価値を売りとする事で事業の持続性を担保し、生産者の収入向上と事業

	継承に取り組んでいる。帰国後のリスキリングを経て、経営者としての努力も重ね、ビジネスを実現している点は後進のモデルとなりうると評価した。
--	----------------------------------------------------------------------

アントレプレナーシップ賞

氏名	木下 一穂 (2012年度3次隊、ルワンダ、野菜栽培)
活動内容	養豚とマカダミアナッツの循環型農業確立とルワンダ産ブランド豚の普及
審査員コメント	任国に戻り起業した事例。豚やナッツという現地にあるものを無駄なく使い、現地政府機関や日本の学校とも技術連携し、独創的な循環型農業を実現している。加えて、無理のない販売ルートや現地従業員とその家族が安心して働ける環境を提供するなど、ビジネスとしての構想力と実行力を評価した。

地域活性化賞

氏名	奥 結香 (2014年度2次隊、マレーシア、障害児・者支援)
活動内容	誰もが集える居場所づくりを通して、ひとりぼっちのいない地域社会を創る。
審査員コメント	隊員の活動を通じて「ひとりぼっちのいない地域・社会をつくる」という人生の目標を定めた後、互助と共生の地域を実現するために、学校や病院、行政、地域住民を巻き込みながら誰もが集える居場所を運営している。地域活性化のモデルとなりうると評価した。

国際協力キャリア賞

氏名	砂原 遵平 (2014年度1次隊、マラウイ、コミュニティ開発)
活動内容	草の根協力からアフリカ大陸開発へ：アフリカ投資の架け橋に
審査員コメント	金融・経済分野における国際機関でのキャリアをめざし、その第一ステップとして協力隊に参加。ここでアフリカの発展と日本の国益の双方に資する活動をキャリア形成の軸に定め、二国間／多国間開発機関等にて勤務してきたことは、隊員経験を経て国際協力分野での活躍を志向する人のモデルになりうると評価した。

SDGs 実践賞	
氏名	平野 耕志（2011年度4次隊、ザンビア、村落開発普及員）
活動内容	体験と循環型の農業を活用した地域活性化型事業
審査員 コメント	任国にて農業を通じた「生きる力」の大切さを痛感し、帰国後、生まれ故郷に戻り、日本最大のキウイフルーツ観光農園を経営し環型農業を実践。加えて、海外での指導、1千人以上の研修生の受け入れ、体験農場における社会教育の機会提供など、持続可能な農業の実践と人材育成に幅広く取り組んでおり、SDGsの複数ゴールに寄与している点を評価した。

多文化共生賞	
氏名	牧 ちさと（2016年度1次隊、ケニア、障害児者支援）
活動内容	「外国につながるのある児童・生徒」への支援体制の構築
審査員 コメント	隊員経験を活かし、特別支援学校や特別支援学級における外国に繋がりのある児童・生徒と保護者の支援体制に取り組んでいる。勤務校のみならず、県内在勤の協力隊経験のある教員のネットワーキングや、行政と連携した支援体制の構築など、様々なステークホルダーを結び付ける行動は、多文化共生における後進のモデルになりうると評価した。

現職参加発展賞※	
氏名/団体名	日比野 ともみ（2012年度1次隊、ヨルダン、音楽）/ヤマハ株式会社
活動内容	ヤマハ株式会社スクールプロジェクト
審査員 コメント	<p>現職参加後、所属企業にて協力隊経験を直接活用できる音楽教育普及活動業務に従事したことをきっかけに、事業の拡大と途上国の開発教育の双方に貢献。現職参加派遣元企業・団体と参加者双方のモデルになりうると評価した。</p> <p>※募集時には未設定の賞でしたが、審査委員会にて、帰国隊員個人のイニシアティブによる社会還元と、その実現を可能とした所属先の双方を評価すべきとの結論に至り、今後の現職参加の個人と所属先の参考にして頂くため、新たな賞を設定することと致しました。</p>

特別実践賞

本年度該当者なし

3. 表彰式

表彰状授与や受賞者より受賞報告として取り組み内容の発表をいただきます。JICA 海外協力隊に関心のある方であれば、どなたでも参加可能ですので、以下の申込フォームからお申し込みください。

【日 時】 2023年5月13日(土) 13時～15時(12時30分より受付開始)

【場 所】 JICA 市ヶ谷 2F 国際会議場

【申 込】 申込フォーム：<https://forms.office.com/r/dbYLb9h65H> (〆切：5月9日)

【関連イベント】

表彰式に引き続き、15時30分から「日本も元気にする青年海外協力隊OB会」と弊機構の共催で「地域で活動する青年海外協力隊OBOGのつどい」を実施します。こちらもOB/OGに限らずJICA海外協力隊に関心のある方はご参加いただけますのでご検討ください。(別途参加申し込みが必要です。)

「地域で活動する青年海外協力隊OBOGのつどい」の詳細は以下のサイトをご覧ください。

(<https://blog.canpan.info/nippon-genki-jocv/>)

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 青年海外協力隊事務局 人材育成課 社会還元表彰担当

TEL : 03-5226-9323 E-mail: jvthd@jica.go.jp